

1. 従来の授業開発研究は、授業理論の実践的な妥当性は吟味できるが、授業理論の原理的な有効性を吟味できない点で限界があるわけである。(p.1)

2. 価値多元社会に相応しい国家・社会の形成者を育成しようとするれば、日本人や日本国民の価値観に閉ざされた公共性を形成されるのではなく、様々な文化的背景をもつ人々の価値観に開かれた公共性を子どもに形成される必要がある。

(p.4)

3. 「論争点の把握」「価値観の分析」「意見の再形成」という3つ段階に即して授業を構成して多元的性秩序観と二元的性秩序観を学習させることにより、性秩序という社会の現実のよりよいあり方を議論させるわけである。(p.4)

4. この計画に基づいて授業評価を実施すれば、子どもが開かれた公共性の形成という概念に意義を見出しているかどうか確かめることができるため、構築主義社会科学習が教科目標に対して果たす効果の有り様をよりよく分析できよう。

(p.8)

**5. ・「全ての国民の人権を大切に
にする政治を行う代表者を選挙
で査定し選ぶチカラを身に付け
る教科」(p.15)**

**6. 子どもに教科目標を視点に
授業を評価させることによって、
子どもを実験授業の対象から実
験授業の批評者に転換する方
法を具体的に提示させる。**

(p.16)

7. 民主的な国家・社会の形成者をよりよく育成するためには、教師が教科目標に関する知見を占有するのではなく、その知見を子どもと共有することにより社会科の授業を作り実践する必要があるのではないか。(p.16)